

メディアの特性を学び、読み取る力・表現する力を育成する

神奈川県川崎市立新城小学校 教諭 片岡 義順

小学校5年 国語 社会科 メディアのめ

番組の特徴

小・中学生がメディアリテラシーを身に付けることを目的としている。実際にメディアを体験したり、楽しみながら、メディアの力を実感したりすることで、メディアとの上手な付き合い方を学んでいくことができる。

研究の概要

児童は、日常生活で、テレビやインターネットなど多くのメディアと接し、情報を受け取っている。これからの社会を生きていく力として、メディアからのたくさんの情報を適切に扱うことができる力の育成が求められている。そこで国語や社会科の授業で、番組を活用してメディアリテラシーについて学ぶことを意識した単元計画を立て、メディアを読み取る力、表現する力などを育成した。

授業デザイン（3時間）

単元：国語 新聞を読もう（5月）

目標：新聞の編集のしかたや記事の書き方に目を向けよう

「工夫がいっぱい！ 新聞作り」

1. 学習課題を知る
2. 番組視聴
3. 新聞の記事を読み比べる

メディア
リテラシー
育成

メディアを批判
的にとらえる能
力の育成



単元：国語 グラフや表を使って表そう（10月）

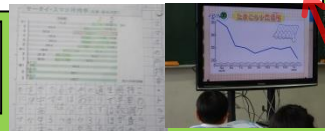
目標：理由付けを明確にして説明しよう

「発見！グラフのちから」

1. 学習課題をもつ
2. 番組視聴
3. 課題を決定して必要な資料を集める
4. 資料を活用して原稿を書く
5. 付箋紙感想交流

メディア
リテラシー
育成

考えをメ
ディアで表現
する力



単元：社会 必要な情報を伝えるニュース番組（1月）

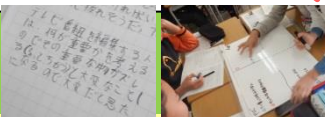
目標：情報を伝える放送局のはたらきを捉える

「知ってる？ニュース番組の舞台裏」

1. 学習課題をもつ
2. 番組視聴
3. 自力解決（ニュース番組が放送されるまで）
4. 交流（作り手の思いについて考えたことを交流）

メディア
リテラシー
育成

メディアを読
解・解釈・鑑賞
する能力の育成



番組や関連動画クリップの活用意図

メディアの特性を分かりやすく理解

日常生活の中で児童がかかわるさまざまなメディアを番組で取り上げる。分かりやすい解説を通して、メディアを通して伝わる情報には発信者の意図があることを体感的に理解することができると考えた。

すべての児童が学びの土俵に上がる

番組活用が新聞記事を比較する視点や、編集効果の前後など視覚的な理解を与える効果を生かした。

番組が表現活動のモデルとなる

児童が情報を発信する活動では番組登場人物の活動がよきモデルとなる。伝えたい思いを効果的に伝えるうえで、番組活用が有効であると考えた。

思考の可視化にかかわる教師の工夫

付箋紙感想交流

付箋紙を使って感想を交流した。相手意識をもって発信した内容について、その効果を実感できることを期待した。



ホワイトボードを使った交流

話合いの内容を視覚的に共有したり理解したりするための手立てとしてホワイトボードを活用した。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価（ワークシート記述）から

- 自分で作ったものをいろいろな人が見てくれたし、うまく説明をすることができたと思う（10月 国語実践より）
- テレビ番組を編集する人は、何が重要かを考えているので、その重要なものがずれる（ちょっと違う）と大変なことになるので大変だと思った（1月 社会実践より）

評価シートから（社会1月実施）

実践前後で有意差が見られた項目は以下の通りである

- 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる
- グループでの学習に、進んで参加することができる
- 学習のめあてをしっかりとつかむことができる
- 放送番組を使った学習は、分かりやすい

実践を終えて

各教科等の学習でもメディアから情報を集めたり、分析したり、自ら発信したりする活動は多く存在する。メディアリテラシーを扱う番組は、こうした教材との相性のよさを感じた。本実践研究を通して、児童はメディアの特性についての理解を深めていくとともに、メディアを活用するよさを感じながら、主体的に発信する活動を行うことができた。今後も意図的に単元計画の中に位置付けていく必要がある。